

インフラを賢く使うまちづくりのための 東環利活用会議活動指針

平成28年7月14日

私たちは、東海環状自動車道の利活用を促進し、アクセス道路等の地域開発を連携して実施することで、更なる民間投資の需要を喚起し、ストック効果の最大化による持続可能なまちづくりを支援するため、以下の取り組みを推進する。

1. 東海環状自動車道の利活用に関する取り組み

- (1) 東海環状自動車道等の地域の基幹となる広域道路ネットワークがどのように利活用されているか把握し、地域開発の基礎資料とすると共に情報共有を図ることで、的確なまちづくり計画策定に繋げる。
- (2) 東海環状自動車道西回りが地域経済に与える効果を事前に把握し、企業等に対して情報共有を図ることで、更なる民間投資に繋げる。

2. インフラ整備のストック効果に関する取り組み

- (1) 東海環状自動車道インターチェンジへのアクセス道路、工業団地、住宅団地等の地域開発計画を連携して「見える化」し、情報共有を図ることで、更なる民間投資の需要を喚起する。

- (2) インフラ整備を見据えた企業活動等の様々なストック効果を継続して把握し、情報共有を図ることで、同種の新規事業に期待される効果の予測に繋げる。
- (3) インフラ整備のストック効果を最大化する取り組みを官民が連携して実施することで、地域の魅力を向上し賑わいの創出に繋げる。

3. 各種広報啓発活動等の実施

- (1) インフラ整備のストック効果を、地域に実感してもらえるような情報提供活動を推進し、新たな地域開発に対する理解を醸成する。
- (2) 地域のまちづくりに関する取り組みやイベント等について、容易に情報が検索出来る仕組みを整備し、来訪し易い環境を整えることで地域の活性化に繋げる。

4. 工業、商業、農業、観光等の幅広い「生の声」の把握

- (1) 地域のまちづくりを効果的・効率的に実施するため、まちづくりに関する企業等の『生の声』を把握し、情報共有を図ると共に、官民が連携して適切に対応することで企業等の生産性向上に繋げる。
- (2) 関係機関が連携・協力し、まちづくりの課題解決に取り組み、より良い地域を目指す。